

企業ニュース 竹内製作所

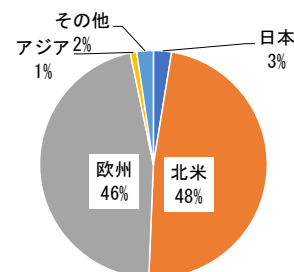
(東証1部：6432) <http://www.takeuchi-mfg.co.jp/>

作成者：奥村義弘

小型建機のパイオニア

1963年創業のミニショベル（小型油圧ショベル）、油圧ショベル、クローラーローダー（履帯で自力走行するトラクター）等の建設機械の完成品メーカー。1971年、世界で初めてミニショベルを開発。1986年には不整地作業に最適なクローラーローダーを世界で初めて開発するなど技術力には定評がある。また18.2期の海外売上高比率は97%と「TAKEUCHI」ブランドは世界に浸透している。17.2～19.2期までの中期経営計画では欧米に経営資源を重点配分、ディーラー網の整備やサポートの強化などグローバル展開を推進している。最終年度の数値目標には売上高886～940億円、売上高営業利益率15～19%を掲げている。

◇地域別売上高構成比（18.2期）



(出所)竹内製作所公表資料よりCAM作成

欧米の販売は揃って好調

19.2期・第2四半期累計（3-8月）の連結業績は売上高が598億円、前年同期比14%増、営業利益が92億円、同11%増。販売台数は北米が同15.5%増、18年1月発売のクローラーローダー（TL6R/3.5トン）の販売が好調であった。欧州は同9.9%増、新商品では18年3月発売のミニショベル（TB225/2.3トン）の販売が好調、既存商品では16年6月発売の油圧ショベル（TB2150/15トン）の販売が好調であった。国別ではイギリス、フランスの販売子会社及びドイツ、オーストリア、デンマークの代理店販売が好調であった。

19.2期の会社計画は売上高が1,060億円、前期比12%増、営業利益が138億円、同2%減。前回予想より売上高で90億円、営業利益で11億円上方修正した。欧州でのミニショベル、油圧ショベルの好調が下期も継続する見込みであること、前提為替レートを第3四半期以降、1ドル=109円（前回予想1ドル=103円）と円安に設定したこと等によるものである。利益面では小型機種の販売構成比率の上昇によるミックスの悪化、原材料価格の上昇や運送費の増加などを織り込んだ。新製品の投入による品揃え強化は、引き続き販売力の向上につながろう。

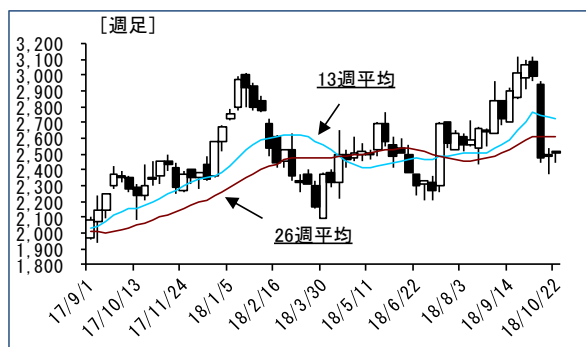
【株価動向・投資判断】

為替の影響を受けやすいが追い風となっている。会社予想は保守的とみられ、業績上振れ期待が大きい。現状の株価には割安感がある。

<6432 竹内製作所 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
17.2	83,000 (▲ 3)	13,404 (▲ 17)	11,722 (▲ 23)	7,757 (▲ 20)	162.1	26.00
18.2	94,342 (▲ 14)	14,133 (▲ 5)	14,033 (▲ 20)	9,547 (▲ 23)	200.2	36.00
19.2 予	106,000 (▲ 12)	13,800 (▲ 2)	13,800 (▲ 2)	10,100 (▲ 6)	211.8	45.00



[主要株価指標] (売買単位：100株)	
株価(2018/10/22)	2,503 円
年初来高値(高値日)	3,120 円(18/9/20)
同 安値(安値日)	2,091 円(18/3/26)
予想 P E R (19.2 予)	11.8 倍
1株株主資本(PBR算出用)	1,524.4 円
P B R	1.64 倍
予想配当利回り	1.80 %
(1株当たり配当金45.00円)	
R O E (18.2)	14.9 %
発行済み株式数	4,900 万株